

災害に強い街づくりのために

長野県長野工業高等学校 建築学科
酒井元気 三枝広翔

1. テーマ設定の理由

- 近年、豪雨や台風などの自然災害が多発していることから建築学科として家づくりにおいて住み続けられるまちづくりについて学べることがあるのではないかと思いこのテーマを選んだ。



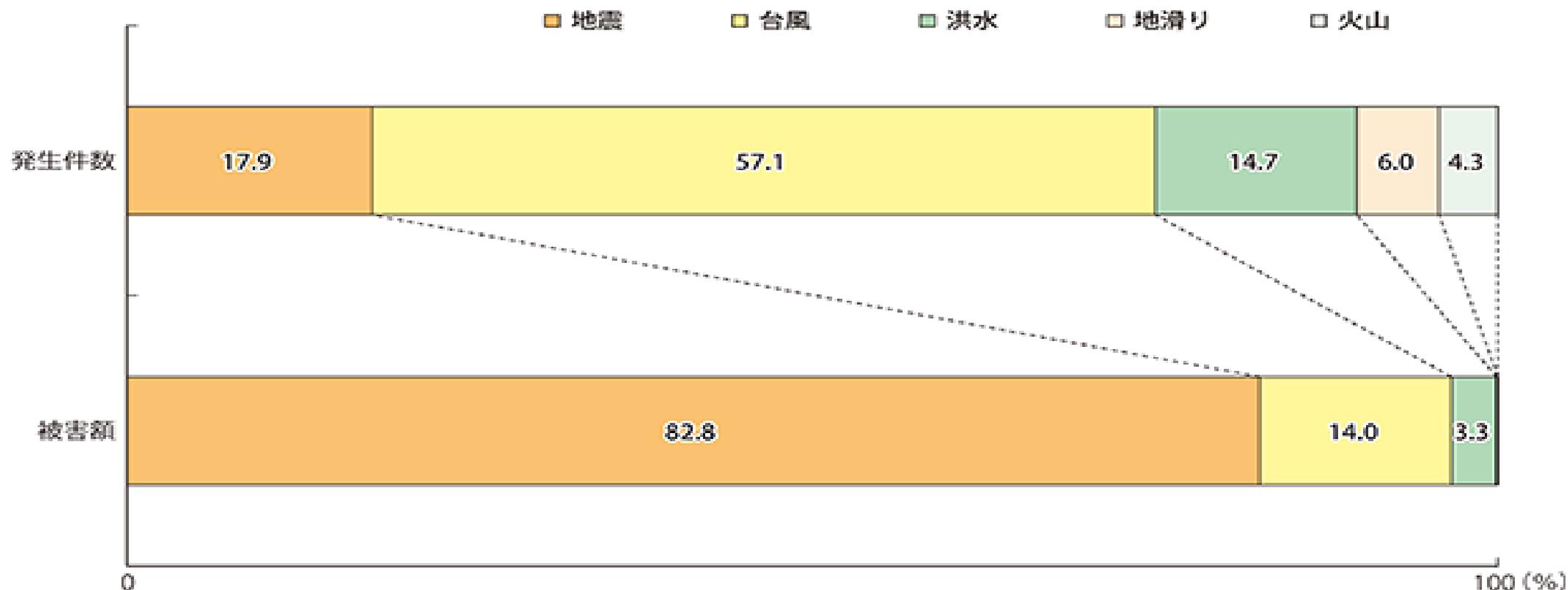
2. 定義

- 災害…自然現象や人為的な原因によって、人命や社会生活に被害が生じる事態
- まちづくり…街の建物を発展させることであるが、一般的にこの言葉が使われる場合は、既存の「まち」をより良いものに「つくり」変えていく、人類の生活向上のための持続的な活動のこと

3.現状

第3-2-3図

我が国における自然災害の発生件数及び被害額の災害別割合



資料：ルーバン・カトリック大学疫学研究所災害データベース（EM-DAT）より中小企業庁作成

(注) 1. 1985年～2018年の自然災害による被害額を集計している。

2. 2018年12月時点でのデータを用いて集計している。

3. EM-DATでは「死者が10人以上」、「被災者が100人以上」、「緊急事態宣言の発令」、「国際救援の要請」のいずれかに該当する事象を「災害」として登録している。

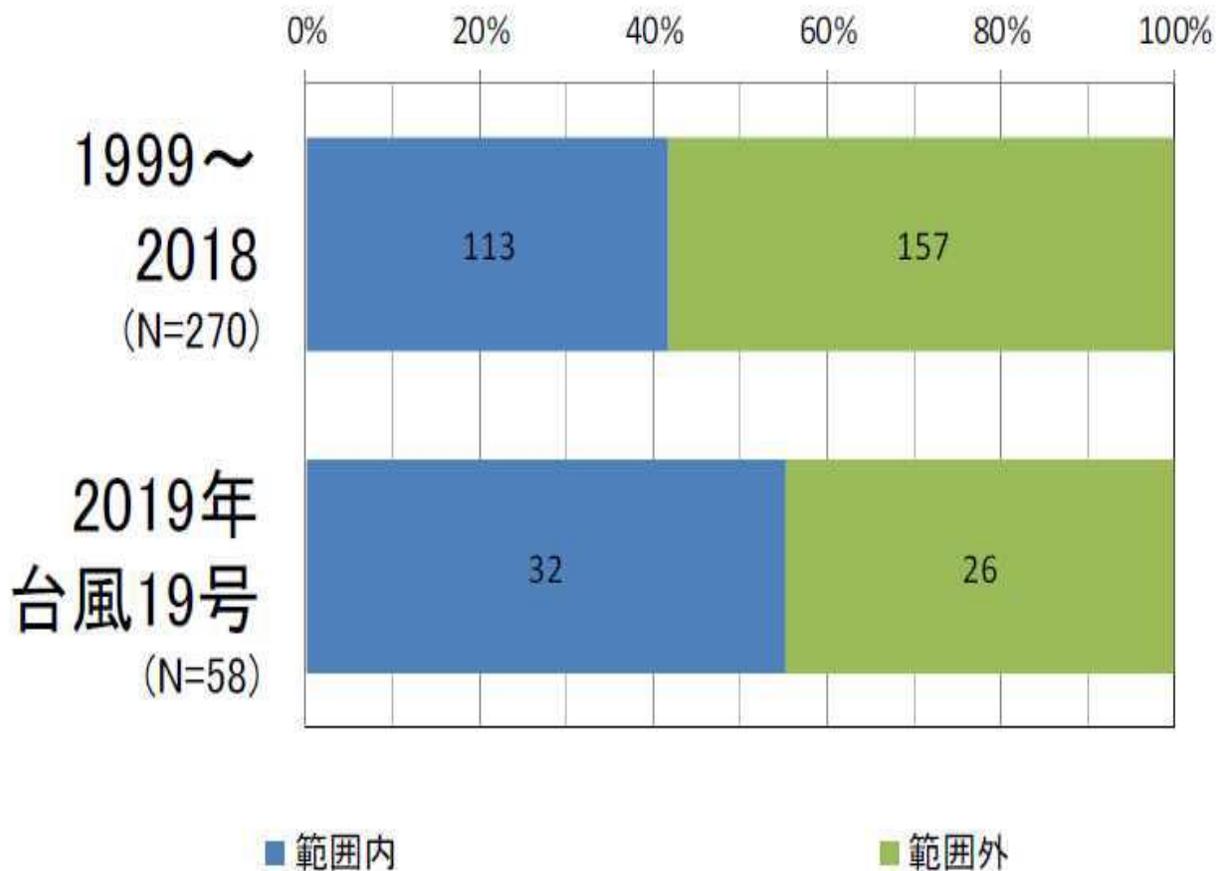
●令和元年台風19(長野市 千曲川の例)

これらは、すべて裏法崩れ

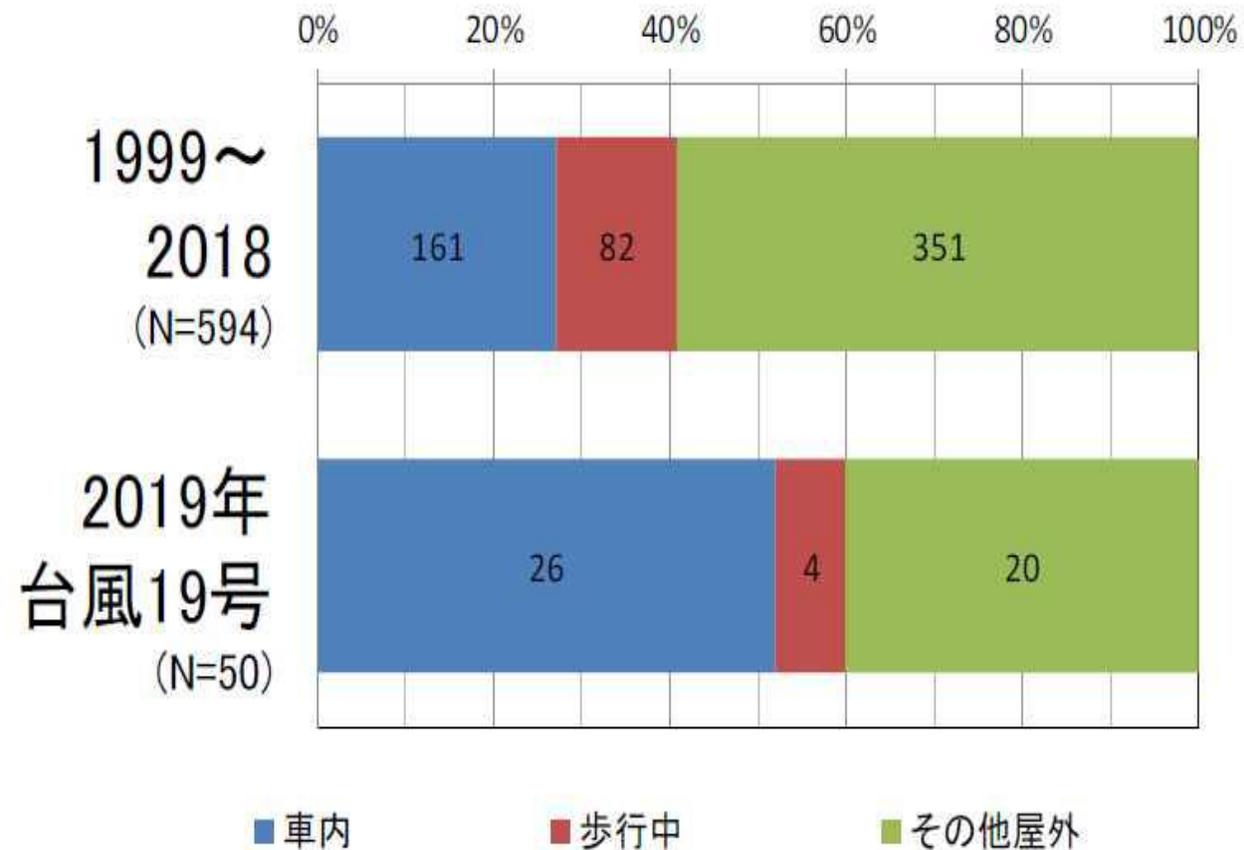


国土交通省北陸地方局より引用

● 「洪水」「河川」犠牲者発生場所と浸水想定区域の関係



● 屋外での犠牲者



2019台風19号による人的被害の調査（速報2019年11月12日版）
 静岡大学防災総合センター牛山素行より引用

4. 問題点

- 屋外での犠牲者が多い。その中でも車内での例が半数を占めている。
- 堤防の決壊箇所が多いこと。
- ハザードマップの想定区域を超えた浸水が起きてしまったこと。
- 浸水想定外での犠牲者が4割。

5. 課題

- ハザードマップの見直し
- 堤防の強化
- 災害時の避難の注意点などの呼びかけ

6. SDGs実現に向けて ～10代からの提言～

- より強固な堤防を造る
- CMなどを用い災害時の対応などを呼びかける

7. 考察・感想

- 今回取り上げた台風19号について知っているつもりだった。しかし、調べてみて屋外での被害者が多いことなど意外と知らないことがたくさんあって驚いた。
- 毎年のように記録的な災害が起きるのでその都度見直しが必要ではないかと思った。